

ばばだめ！ JTサンダーズ広島

竹田 英司



岡山大会の初戦（1月30日）、堺との熱戦を制した後の控室で西知恵選手が「今日もまた洗濯当番か…」とつぶやくと、近くにいた唐川大志選手が「不満を言うな。自分の時は同期が他にいなくて、雑用はいつも一人。次の年も新人が（金子）聖輝だけだったから、二人で何でもやった」と諭していた。その唐川選手。愛媛大会で食料

陳さんの歌で一体感



を買い出しに出掛けた私を見て「お散歩ですか」と声を掛けてきた。「重たい荷物を抱えた人の気も知らないで、親の心子知らず、とはまさにこのことだな」と二人で笑った。

翌日の試合前、エドガー選手が新井雄大選手に笑顔で話し掛けていた。「俺のことは怖がらなくていいぞ。新井は23歳？ 22だど？俺より10も年下かよ。（日本語で）トムさん、おじさん」とおどけ、いつものように豪快に笑った。

陳建禎選手が控室で「今日は桃太郎さんを歌うよ」と私に耳打ちしてきた。試合直前恒例の声出し当番になった陳さんは、バスの中で何度も自作の詩を見ながらこっそり練習をしていた。試合会場の岡山にちなんで桃太郎とは、趣味でピアノを弾く感性豊かな陳さんらしい選択だ。

円陣の中で陳さんが「JTサンダーズ広島さん」で始まる桃太郎の替え歌を熱唱すると、皆が手拍子を送り、チームに一体感が生まれた。お披露目できる機会があれば、ぜひファンの皆さまの前で歌ってほしい。

（JT広島マネジャー）

レシーブする陳⑱と新井⑨、左端は唐川、奥はエドガーの各選手
（1月31日）

